

# 審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

課所名

都市計画課

会 議 名 第1回 諏訪市都市計画マスタープラン改定委員会

開催日時 平成 29 年7月 27 日(木) 13:30～15:50

出席者 委員:伊藤三和子、岩波健一、蟹江弓子、金子智子、神山裕子、北原美智子、倉田直道、小林世子、水口森隆、宮澤節子、百瀬和弥、矢崎竹代、山谷恭博、渡邊芳紀 14名  
 欠席委員:矢崎知広 1名  
 諏訪市:金子市長、小松建設部長、金子都市計画課長、下澤計画係長、百瀬主任、原主任  
 諏訪市政策アドバイザー:今井晴彦  
 傍聴者:なし

資 料 ◇事前配布資料  
 次第  
 委員名簿  
 【資料1】都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の概要  
 【資料2】今後の委員会の開催予定及び全体概略日程  
 【資料3】アンケート調査結果(概要版)  
 【資料4】まちづくりの潮流の整理  
 【資料5】現都市計画マスタープランの評価結果と都市計画上の現状と課題  
 【資料6】都市の課題図  
 【資料7】都市づくりの基本理念等の再設定  
 【資料8】立地適正化計画策定方針(案)  
 ◇当日配布資料  
 【参考資料1】諏訪市都市計画マスタープラン(平成 10 年3月策定)  
 【参考資料2】アンケート調査結果(全体版)  
 【参考資料3】お出かけ意向調査(追加アンケート)結果

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員長・副委員長選出  
 委員長:倉田直道 副委員長:宮澤節子
- 5 委員長あいさつ
- 6 協議事項
  - (1)都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の概要
  - (2)検討の体制
  - (3)今後の委員会の開催予定及び全体概略日程
  - (4)アンケート調査結果
  - (5)都市計画マスタープラン及び立地適正化計画について

- ・まちづくりの潮流の整理
- ・現都市計画マスタープランの評価結果と都市計画上の現状と課題
- ・都市の課題図
- ・都市づくりの基本理念等の再設定
- ・立地適正化計画策定方針(案)

(6)各委員から意見・感想等

7 その他

8 閉会

### [質疑意見一括]

6 協議事項 (6)各委員から意見・感想等

委員:計画がうまく進めばいいと思う。高齢化や農地の荒廃が一番自分の身近に感じる。

委員長:大きく社会が変化している中で、高齢化は非常に大きな課題であり、今回都市計画マスタープラン、立地適正化計画共にその課題をしっかり受け止めないと、これから先の10年、20年の諏訪市の街というのは、市民の期待に応えたものになっていかない。

委員:諏訪湖を含めて観光資源、文化資源があり、それを如何に活用していくか、全体図の構想というのも考えなければいけない。駅前の再開発、西口から諏訪湖へ向けての再開発も含め、観光市としての計画も考えていただかないといけない。

自分達の小さい頃は、集落単位がはっきりしており、それが今回の立地適正化計画のイメージに近い。農地が宅地化されてしまい問題も出てきている。農業の適正地や住宅地を誘導する区域を明確にできれば良い。

空き家等をうまく使って、市街地に新しい方を呼べるような方策ができないものかと思った。

茅野は人数が増えているが、茅野を選ぶ方はなぜ諏訪を選ばないのか、そういう新しく入ってくる人数を増やすことも、人口減少に歯止めをかける一つの考え方ではないかと思った。若い年齢層が均等に入ってくる様な都市計画をして頂ければありがたい。また、若い方々が大学等に行った後に、諏訪に戻って来ることができる環境づくりについても頭に入れて頂けるとありがたい。

委員:厚労省では医療費節減のため在宅で高齢者を診るようこと言っているが、在宅は増えていない。施設が色々建っているが、施設での働き手が既にどこも不足している。都市機能を誘導するということで、個人で個人を診るというよりも、複数で複数を支援していくという形になると思うため、コンパクトという発想はとても良い発想だと思う。医療の中核となる日赤とうまく入院・退院・リハビリ・在宅が回せるような仕組みを作っていかなければならない。介護の担い手が非常に減っており、施設を建てれば良いというものではない。

また、若い人が住めるような魅力のある地域にしなければ、人口はとも増えない。若い人たちをどうやって確保するかということが心配である。

観光に関して、今は点での観光はあるが、線で観光を楽しむための工夫が必要である。

災害に関しては、東バル跡地は病院に近く、東バル跡地以外に広い土地がないため、日頃は多目的に使い、災害時のための土地として使えるように活用すべき。

高齢者や高齢者施設が増えている中で、災害時に施設が孤立すると思う。限られた職員数で何十人もの高齢者の安全を守っていくにはかなり苦しい状況になる。

委員:子どもや高齢者に優しい、住みよい街が一番活性するということやずっと聞かされており、実感もある。弱者の施設が街の真ん中にできることは良いことだと思う。災害時には地域の方々、大勢の方に手を借りないと対応できない状況にある。そういった中で住みよい街とはどういうものかと考えると、視野を広げていかないといけないと思う。

委員: 居住誘導区域に関連して、マイホームが欲しいとなった時に、諏訪市では、東西の山側は土石流警戒区域や急傾斜地の問題があり、平坦地は液状化に確実にと言われている。市民はそういった事を分かっており、安全面に加え土地が断然安いこともあり、茅野市の玉川や八ヶ岳山麓に流出してしまっている。もし、諏訪市内に建てるとしても、地盤改良が必要になる所がほとんどであり、プラス 100~200 万円くらいの費用負担となることが、さらに流出させてしまっている。もし、居住誘導区域に居住を誘導したいのであれば、補助金や安全性をPRするなどしないと、なかなか諏訪を選んでもらうことは難しいと感じた。

空き家バンクに関しては、今挙がってきている空き家は解体する以外どう考えても住めない、直して住むなら一千万、二千万かかるだろうという様な空き家しかない。空き家のままでいいと思う持ち主が多いと思う。持ち主が東京等遠方であると、なおさらそうではないかと思う。

これは個人的な希望だが、バイパスを是非早く進めて頂きたい。

委員: 交通の面で子どもやお年寄りが安全で安心に歩ける道路を整備してもらいたい。

自営業で石屋もやりながら、お茶屋もやっており、観光客の方が多くいらっしゃる。諏訪大社上社本宮を参られる方は前宮も見たいという方も多し。本宮から前宮まで3km 弱の道は歩道が整備されていないところや、車が多くて歩きづらいと思うところがたくさんある。せっかく文化財もあるため、もう少しその辺り、観光客の方も楽しめる様になっていけばいいと思う。

かりんちゃんバスについて、もっと多くの方が公共交通機関を利用される様になれば良いと思う。

委員: 日本全体の大きな課題は人口減少、少子高齢化だと思うが、それに対して交流人口を増やし、地域経済に活力を生み出していくことが観光の役割だと思う。もちろん人口減少を止めることは難しいと思うが、交流人口を増やすことで解消できる部分があると考えている。

委員: アンケートの重要度の高い項目は、一番は「災害に強い安全なまちづくり」と砂防や河川の関係であり、二番以下は道路関係や下水関係ということで、私どもが担っている部分の重要性が高いことを改めて認識した。道路の関係は、アンケート結果からも自動車かあるいは徒歩を利用される方が多いのではないかと思う。今国道 20 号バイパスの計画が実現すると、諏訪地域の交通環境が非常に大きく変わる。その交通の流れは当然街なかにも影響する。県でも道ビジョンを今年度検討し始めているが、歴史のある街は非常に道が狭く、住宅が密集している所が多い。理想的には、どの道も歩道があり、車がしっかり通れるような幅があれば良いが、諏訪はそうっていないのが現実である。こういうマスタープランの中で、地域の実情も考慮しながら、本当に重要な、整備していかねばいけない所はどこなのかということをし、しっかりと見極めていくことも大事だと考えている。

観光面で諏訪は非常に観光施設が多く魅力的な場所ではあるが、バスが滞留している場所が無い、バスが入って来にくい場所だというご意見を頂いた。そういった点も、まちづくりの中に組み込んでいけば、観光面での利便性が上がってくるのではないかと思う。

委員: 私は今年諏訪に来たが、10 年ほど前にも諏訪に勤務した事がある。10 年経つ中でも、道路などが整備され、非常に良くなったというイメージはある。しかし、残っている昔の道に入っていくと、やはり昔と変わらず歩道が整備されていない道もある。

諏訪は素晴らしい観光地で、県外から来る場合はインターを利用しており、諏訪大社へ行く方や諏訪湖畔へ宿泊される方が多くいらっしゃる。イベントがあると、交通の面で駐車場が足りないとか、交通規制が複雑だとか、そういった部分も考えていかねばいけない。

諏訪は昔から温泉が地区にあり、そういった意味でコミュニティが非常に発達した場所ではないかと思う。今は昔の様なコミュニティが若い方はなかなか作れない状況にある。災害時もお互い助け合わなければ回っていかないと思うため、昔ながらの良い部分を残して、またリターンの人にも戻ってきて頂き、新しいコミュニティを作ることで、住みよい所を作っていければいいかなと思う。

交通面について、公共交通をメインにして、若い人は車、学生さんは自転車という形になってくるかと思う。警察

では高齢者の免許の自主返納を行っているが、高齢者の方は免許を返納した後、どうやって生活すればいいのかという永遠の課題がある。そのため、車を利用しなくても歩いて買い物に行けることが必要になってくると思う。高齢者に優しい街を作っていくといけないと思う。

委員: 諏訪市が、皆が安心・安全で暮らせる街に是非なって欲しいと思う。

子どもがうちの地区もどんどん少なくなっている。なかなか長男が結婚できず、それで子どもが少ないのかないつも考えている。色んな機関ですごく頑張っているが、なかなかそこをうまくできないものかないつも考えている。

自分の命は自分で守りましょうという観点から、今市役所では65歳以上の方やお一人の方に安心カードを作り、民生委員が各家庭に配っている。市役所の方も一生懸命係わって下さり、安心カードは6市町村に伝えましょうということが始まっている。

東バル跡地は是非安心・安全を考えて残して頂きたいと思う。

諏訪の土地は色んな難点がたくさんあるが、地盤を考え、良い住宅が建てられるように、皆さんの力をお借りして、安心・安全な諏訪の街を作って頂きたいと思う。

委員: 資料3で「駅・バス停周辺の都市施設等の公共サービスが充実した便利なエリア」を好んでいるということだが、便利とは何だろうという気がする。どういう場所が便利なのかは、年代や人によって多分違うだろうと思う。

資料3の2ページで、「徒歩や公共交通等で移動できる範囲に店舗、病院、公共施設等を集める」とあるが、移動できる範囲をどのように考えるか、検討しないといけないと思う。

資料6の都市の課題図で、「駅周辺の再整備」とあるが、目的を持って整備をしていかななくてはいけない。整備と言っても、東口の整備と西口の整備では目的が全く違い、言葉で一括りにするのではない。交通面・観光面で、一番今諏訪で不足しているのは交通結節点である。東口は、歩道をきちっと整備していかなければいけない。大きなマンションがあるが、火事になった時に、そこにはしご車が入ってくるためにはすごく時間がかかる。そのため、調和の取れた立地適正化計画は非常に大事な気がする。

委員: これから25年先の事を見るには、今日の会議は少し年を取った人が多く、もっと若い人たちに入ってもらった方がいいのではないかな。

配布資料を見ると、非常にきれいにできており、誰が読んでもこれはいいなという様に見えるが、これは人口減少や高齢化に対する努力は何もなかった時の対策であると思って聞いていた。人口減少、高齢化に対する努力は何も謳われていないが、そういう努力は必要である。このままいくと将来この街も破壊されていくと思う。それを避けるためにはどうしたらいいか、そこが都市計画の一つの観点になってくるのではないかなと思った。

副委員長: 非常に変わったなと一番思うのが、人の流れと環境である。社会環境が激変している中、道や色んな公共施設ももちろんだが、一番変わったのはそこに集う人、住んでいる人たちの意識感覚が非常に変わってきたのではないかなと思う。今、子どもの事に関わっている中で、一番懸念しているのがメディア発達によって子ども達が非常に変わってしまったことである。また、母親のスマホ依存症が増え、それも大問題になるのではないかなと思っている。だから、そういうことをハード面・ソフト面の両方を考えながら、都市計画というものがあるのではないかなと感じている。

今日来ている委員の方も色んな活動をしていたり、色んな声を聞いているかと思うので、皆さんが集まったからには、是非そういうものを出して頂き、一つこういう街にしたいなという思いが繋がればいいと思う。

社会環境が激変していることを食い止めるにはどうしたらいいのかなというのが、私達が子育てに関わる活動を行う一番の要因である。そのため、コンパクトシティとはどういうものなのか、便利とは何なのかということから考え、道路や環境の事を考えていきたいと思う。

また、アンケートも取って頂いているが、住民の人にきめ細かくご意見を頂きながら、計画づくりをしていくことが必要ではないかなと思った。

委員長:もともと都市計画というのは、一般には鳥の目で上から街を見て都市のあり方を考えようという所がある。昔の都市計画というのは道路をどの様に整備するかや、土地利用をどのようにするかといった事に焦点が当たっていた。今日、皆さんの話を伺っていると、皆さんの視点はまちづくりの視点であり、これは虫の視点と言ったりする。20年前の都市計画マスタープランでは鳥の目で良かったかもしれないが、都市計画マスタープランを改定するにあたり、虫の目、つまりまちづくりの視点を取り込んだ都市計画マスタープランになっていかなければならないと感じた。アンケート結果からも、人口減少だけで都市を捉えるのではなく、もう少し身近な暮らしから街をもう一度見ていくことが、今の諏訪市の都市計画マスタープランに求められていることかなと感じた。

もう一つは私の意見になる。私自身が高校生まで暮らしていた諏訪の方が暮らしやすかったと感じる。それは色々な意味であり、便利さとは少し違うかもしれない。私は上諏訪出身だが、小さい頃は街なか全体が遊び場のような感じがあった。それが、この50年間で大きく変わったという実感がある。諏訪だけに限った話ではないが、非常に大きな契機となったのは車社会だと思う。車社会が進むにしたがい、無秩序に市街地が拡大した。もちろん、車を移動手段として手に入れる事によって、非常に便利にはなったが、それが最終的に暮らしの豊かさに繋がったかどうかということが非常に問題だと思っている。車社会が進んだことによって、暮らし方が随分変わり、暮らし方が変わったことによって、それに対応する形で街も変わったという事だと思う。ここで改めて考えないといけないのは、諏訪の都市計画マスタープランの目標が最終的にいかに暮らしやすい豊かな街を作るのかということだとすると、自分達が求めている暮らしの豊かさとはどんな事なのだろうかということ具体的にお考え頂き、それを実現するための手段として都市計画をどのように考えればいいのかという事を考えて頂くというのではいかと感じた。

車社会により中心市街地の衰退・空洞化が起きているだけではなく、実は人の交流の機会や人の接触が希薄になっている。車というのは目的地までの非常に効率の良いダイレクトな移動手段であるため、そういった意味で人の接触機会は本当に少なくなっている。その結果、今度はコミュニティも崩壊していく。市街地が分散したこともそうだが、車社会による人の接触の希薄化も、村や昔の集落単位が非常に良いと感じることに関係してくるのではないと思う。

簡単に言うとコンパクトシティというのは、歩行圏にある程度生活に必要な機能があって、その中で色々な人の交流の機会もあるというのが、コンパクトシティの一つのイメージである。ただ、必ずしも車を排除しているという訳ではないが、少なくとも自分が暮らしている範囲においては歩いて生活に必要な物が手に入るし、医療も含めた暮らしのサービスが提供されるということである。歩くことを象徴的に扱って、いかに歩いて暮らせる街(ウォーカブルシティ)を作るかという所を目標にしている都市が非常に海外でも増えている。それはほとんどが車社会の反省からきており、少子高齢化の中で、その辺りを諏訪市の課題として強く意識した都市計画マスタープランあるいは立地適正化計画にしていけないのではないかと思う。

高齢化の中、交通弱者はどんどん増えていく。高齢者だけでなく、若者も免許を持っていなければ皆交通弱者と呼ぶ。歩行以外に移動の自由が保障されていない中で、少しでも歩いて暮らせる街を作ろうとすると、かなり色々な事を考えないといけない。道路整備について、20~30年前は車のための道路を考える事が主だったと思うが、これからは歩行者を優先して道路を考えなくてははいけない。かつての諏訪は歩いて暮らせる街だ感じていたが、それがどんどんそうではなくなってきてしまった。これから新しい街を作るというよりは、どうやったらもう一度諏訪が持っていた豊かさを再生できるかという事に繋がるのではないと思う。